

(案)

# 競輪事業等運営方式の基本的な考え方

平成31年3月

グリーンドーム前橋等運営検討委員会

# 目 次

1. 検討の目的	1
2. 本市の人口構造と財政状況	1
(1)本市の人口構造	
(2)本市の財政状況	
3. 本市の競輪事業の状況	5
4. グリーンドーム前橋等施設の状況	8
5. 現状と課題	11
(1)各施設等の課題	
(2)館林場外車券売場の状況	
(3)公営事業課の状況	
(4)従事員の状況	
(5)前橋競輪の売上	
(6)グリーンドーム前橋の施設改修	
(7)財政運営シミュレーション	
6. 包括委託に関する調査結果	21
7. 新しい事業展開	24
8. 今後の事業運営の可能性	26
(1)事業運営方式の比較	
(2)財政運営シミュレーション（直営と委託）	
9. 競輪事業等運営方式の考え方	28
<b>【資料】</b>	<b>30</b>
・検討経過	
・グリーンドーム前橋等運営検討委員会名簿	
・グリーンドーム前橋等運営検討委員会設置要綱	

# 1 検討の目的

人口減少、高齢社会に伴い、歳入減、歳出増が続く中、安定した財源確保を図っていく必要がある。市の財源としての競輪事業の収益確保を目指して、今後、持続可能な収益を生み続ける競輪事業の運営を展開していくためには、現在の直営方式によるさらなる経営努力とともに、広く民間事業者の活力も含め検討していく。

また、併せて自転車競技以外のイベント等の運営についても再考し、グリーンドーム前橋の更なる利活用の推進により、にぎわい創出やまちづくりにも寄与するとともに本市の活性化につなげていく。

## 【参考】

### 競輪の目的

#### (1) 自転車競技法

- ・ 自転車その他の機械工業の振興
- ・ 体育、社会福祉などの公益の増進
- ・ 地方財政の健全化

#### (2) 地方財政健全化に対する競輪事業の役割

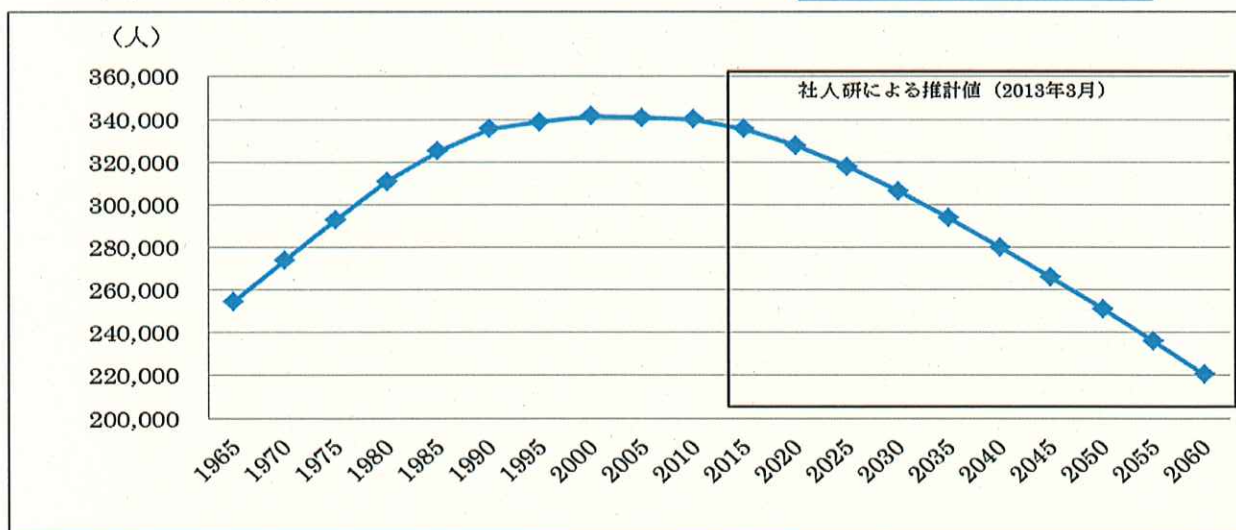
- ・ 一般会計への繰出し
- ・ 地域産業としての雇用をはじめとする経済効果

# 2 本市の人口構造と財政状況

## (1) 本市の人口構造

### ・ 総人口の推移

出典: 第七次前橋市総合計画



年	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010
人口	254,595	273,864	293,135	311,121	325,304	335,704	338,845	341,738	340,904	340,291

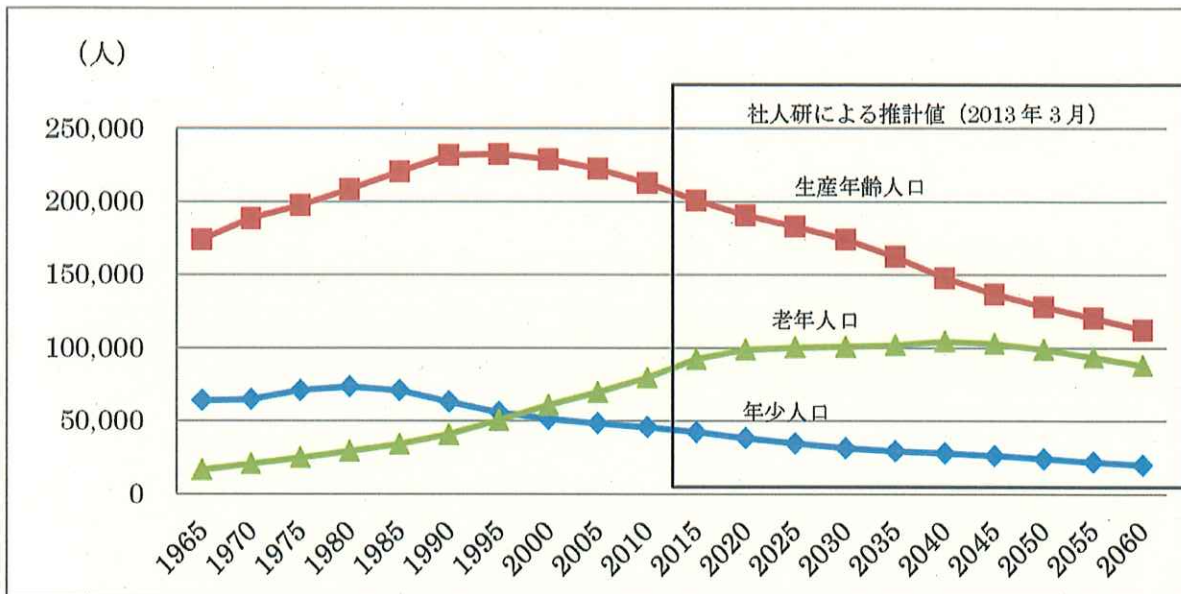
  

年	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
人口	335,580	327,856	317,899	306,475	293,801	280,181	265,842	251,228	236,089	220,541

(2010年までは国勢調査の結果、2015年からは国立社会保障・人口問題研究所による推計)

・年齢別人口の推移

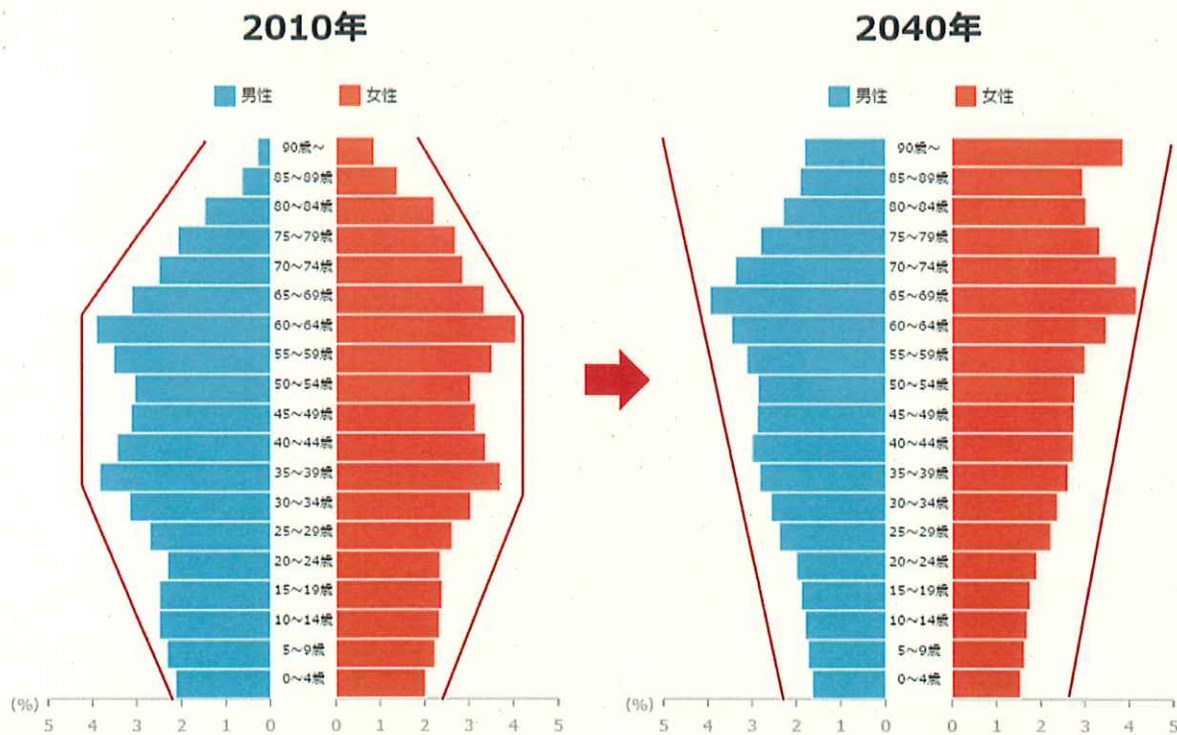
【年齢3区分別人口の推移】



(年少人口：0～14歳 生産年齢人口：15～64歳 老年人口：65歳以上)

(出典：国勢調査)

【前橋市の人口ピラミッド (2010年→2040年)】



(2010年は国勢調査の結果、2040年は国立社会保障・人口問題研究所による推計を基に作成)

出典：第七次前橋市総合計画



## (2) 本市の財政状況

出典：第七次前橋市総合計画

今後の財政見通し（一般会計）

本市の財政見通しは、歳入では、地方交付税の合併特例措置の段階的な終了により、大幅な減収が見込まれるほか、歳出では、医療や介護などの社会保障経費が増加するとともに、市債の償還経費が高水準で推移すると見込まれます。また、基金残高も減少しており、今後の厳しい財政状況が予測されることから、将来的に安定した市政運営のため、緊急性や優先度などから事業を進める必要があります。

(単位：億円)

区分	H29 (当初予算)	H30 (当初予算)	H31 (推計)	H32 (推計)	H33 (推計)	H34 (推計)	H35 (推計)	H36 (推計)	H37 (推計)	H38 (推計)	H39 (推計)
歳入	1,459	1,434	1,440	1,401	1,370	1,383	1,373	1,374	1,378	1,378	1,387
市税	527	534	536	539	541	543	545	547	549	551	553
地方交付税	122	120	113	109	110	106	104	97	98	96	95
市債	176	154	165	151	124	137	126	126	126	126	126
その他	634	626	626	602	595	597	598	604	605	605	613
譲与税交付金等	82	91	89	91	92	93	94	96	97	98	100
国・県支出金	325	322	340	320	311	312	315	318	321	323	325
その他	227	213	197	191	192	192	189	190	187	184	188
歳出	1,459	1,434	1,440	1,401	1,370	1,383	1,373	1,374	1,378	1,378	1,387
義務的経費	653	659	664	678	691	694	698	699	703	703	712
人件費	215	218	216	217	221	215	215	219	221	218	221
扶助費	286	292	298	306	310	314	317	321	324	328	330
公債費	152	149	150	155	160	165	166	159	158	157	161
投資的経費	256	214	228	185	144	154	139	139	139	139	139
その他の経費	550	561	548	538	535	535	536	536	536	536	536
物件費 ※1	185	190	191	190	188	189	190	190	190	190	190
維持補修費	22	22	25	23	25	24	24	24	24	24	24
補助費等 ※2	145	154	154	154	154	154	154	154	154	154	154
繰出金 ※3	86	85	88	88	85	85	85	85	85	85	85
その他	112	110	90	83	83	83	83	83	83	83	83

《推計に当たっての考え方、用語解説等》

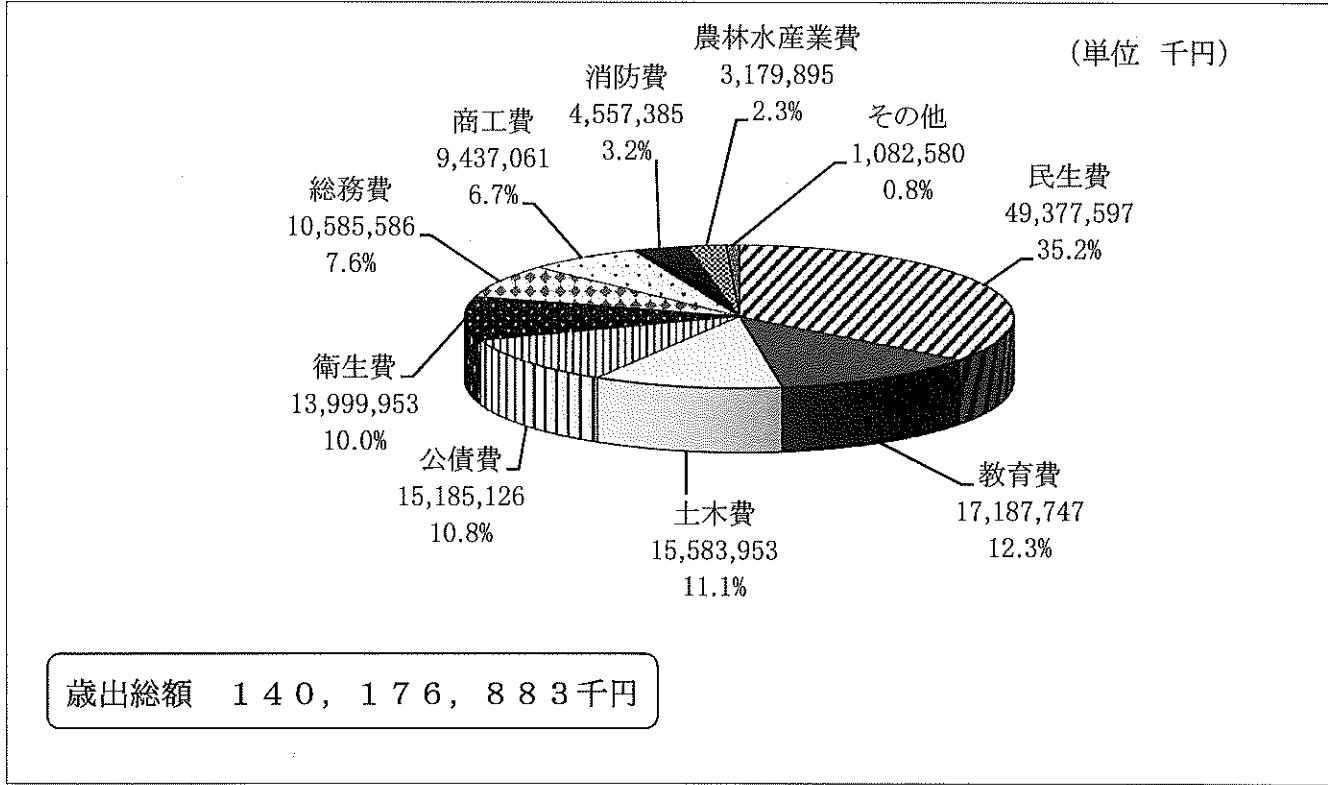
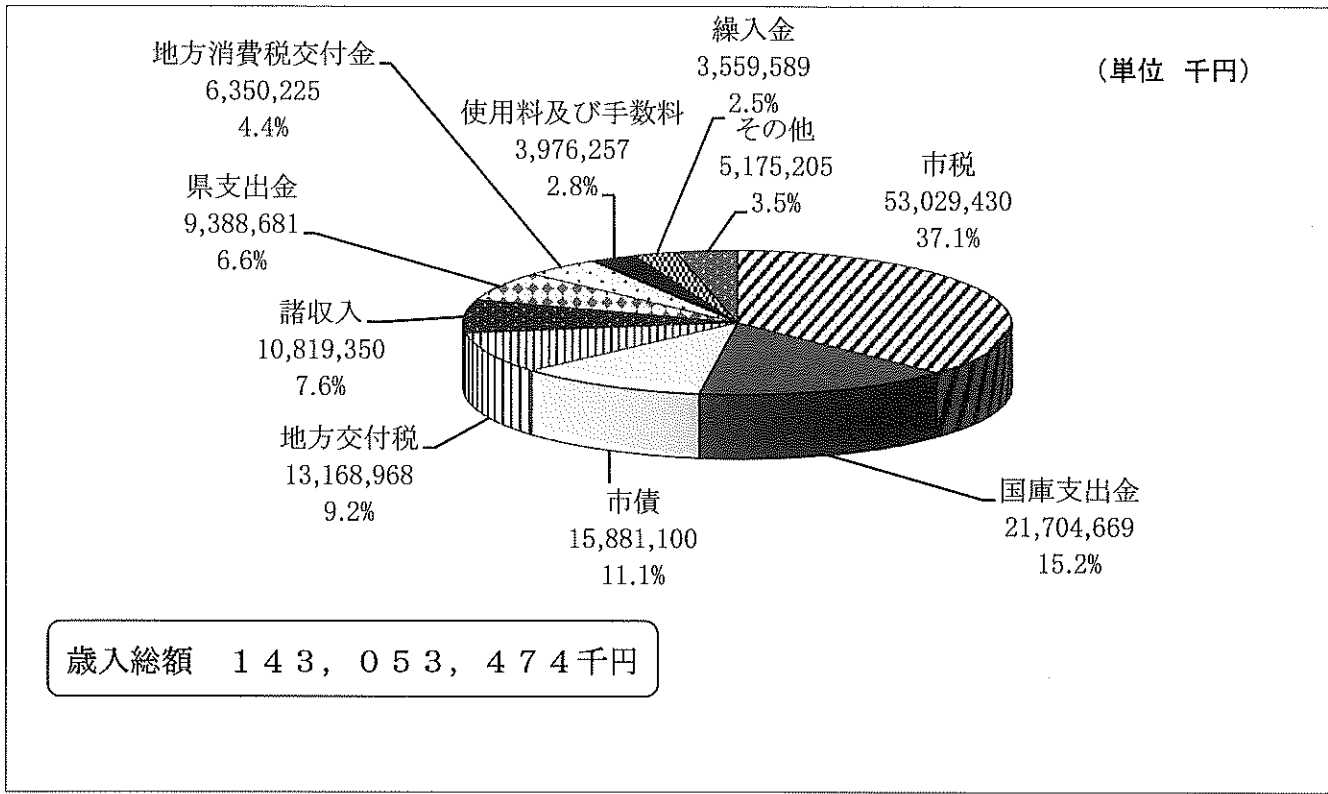
- ・歳入歳出の見込額は、平成30年度当初予算計上額をベースに決算の状況及び国の資料等を参考に推計しています。
- ・税制については、現状の制度が継続することを前提としています。
- ・地方交付税は、10年間の特例措置である合併算定替えの終了（平成27年度から平成32年度までに段階的に終了）を見込んでいます。

※1 「物件費」…消費的支出のうち、人件費・扶助費・維持補修費などを除いた様々な経費の総称（消耗品費、光熱水費、通信運搬費など）

※2 「補助費等」…各種団体（企業会計含む）に対する負担金や助成金など

※3 「繰出金」…一般会計から特別会計に支出される経費

【参考】平成29年度一般会計決算の内訳



### 3 本市の競輪事業の状況

#### (1) 前橋市営競輪の状況

車券売上額の状況

(単位:円)

	前橋競輪場	利根西前売サービスセンター	館林場外車券売場	電話投票	臨時場外車券売場	合計	備考
平成2年度	24,059,145,500	—	11,833,047,000	1,377,745,500	6,571,698,500	43,841,636,500	
平成3年度	25,176,696,500	—	12,588,029,700	4,737,309,300	36,799,228,200	79,301,263,700	日本選手権
平成25年度	995,260,900	131,444,700	646,272,700	3,195,888,500	9,889,349,600	14,858,216,400	三山王冠GⅢ
平成26年度	990,887,900	111,737,600	654,578,000	5,735,060,300	14,881,691,400	22,373,955,200	オールスター競輪GⅠ
平成27年度	587,323,800	70,523,600	355,640,100	4,568,408,600	10,054,259,700	15,636,155,800	三山王冠GⅢ
平成28年度	568,869,600	64,560,800	321,597,100	5,118,665,800	11,911,394,700	17,985,088,000	寛仁親王牌GⅠ
平成29年度	560,424,600	69,171,200	308,931,200	5,453,157,700	14,098,908,400	20,490,593,100	寛仁親王牌GⅠ

開催日数と入場者数

	開催日数(日)	うちミッドナイト日数(日)	うちナイター日数(日)	入場人員(人)
平成2年度	57	—	—	383,824
平成3年度	57	—	—	433,006
平成25年度	67	15	—	100,355
平成26年度	82	39	3	86,074
平成27年度	67	30	6	63,312
平成28年度	58	24	12	59,247
平成29年度	58	24	15	57,299

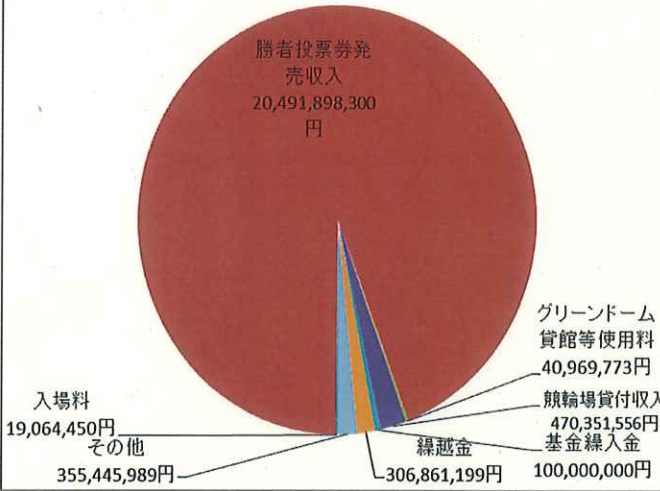
※ 平成2年度、平成3年度は通常開催と施設改善競輪を計上。



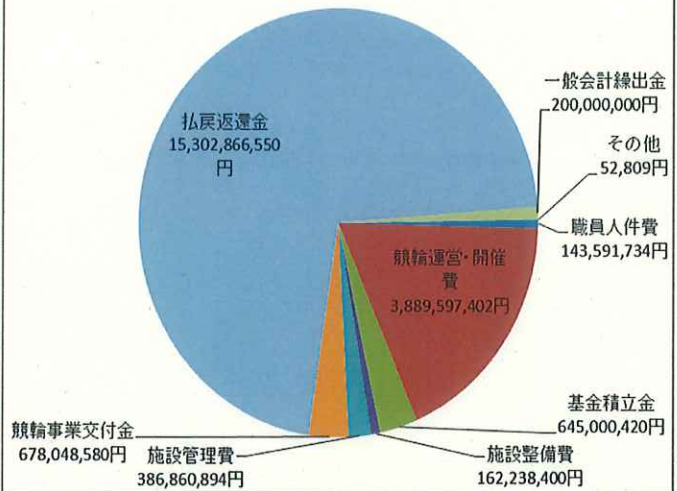


(2) 平成29年度競輪特別会計の状況

歳入合計 21,784,591,267円



歳出合計 21,408,256,789円



一般会計繰出金の状況(単位:百万円)

区分	3年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
一般会計繰出金	3,000	100	200	200	200	200

施設整備等基金の状況(単位:百万円)

	3年度	6年度	26年度	27年度	28年度	29年度
取崩額	1,140	0	57	411	310	100
積立額	1,697	160	491	386	548	645
残額	5,486	7,346	1,965	1,940	2,178	2,723

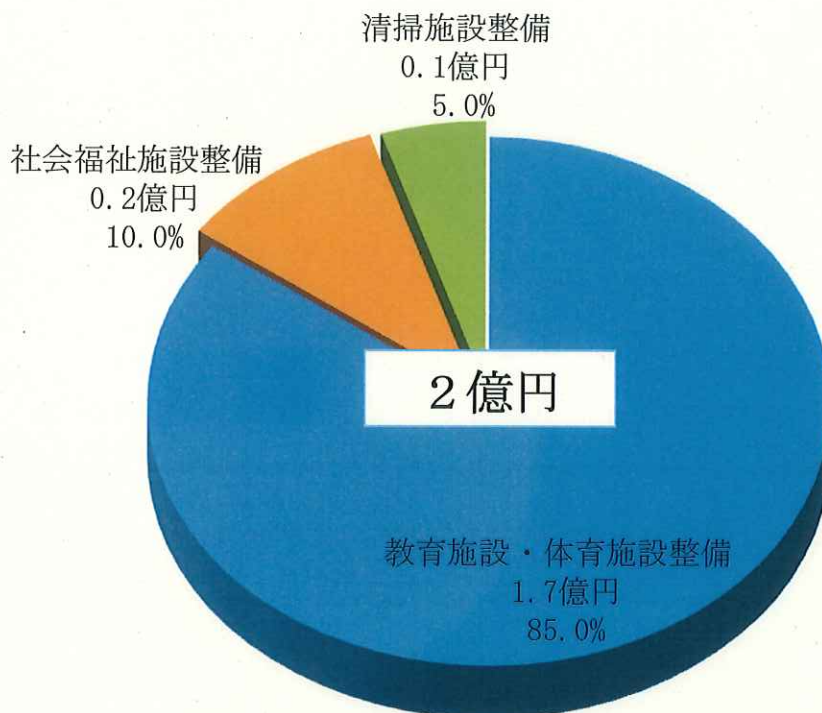
※ 現在の前橋市グリーンドーム前橋等整備基金は平成26年12月10日設置。  
 ※ 他に前橋市グリーンドーム前橋財政調整基金を平成26年12月10日設置。  
 平成29年度末残高は701,178,308円



### (3) 平成29年度競輪収益金の使い道

競輪事業の収益金は、これまでも福祉施設や教育・文化施設の整備等に役立てられています。平成29年度の競輪収益金は、教育、福祉の分野に重点的に充当し、市民福祉の向上のため、次のように使われます。また、コンベンション施設でもあるヤマダグリーンドーム前橋の維持管理を競輪事業が支えています。

#### 競輪収益金の使途と充当額



<競輪収益金の具体的な使い道（主なもの）>  
以下の事業に活用しました。

<教育施設・体育施設整備>

- ・小中学校
- ・小中学校施設整備
- ・市立前橋高校施設整備
- ・体育施設整備

<社会福祉施設整備>

- ・老人福祉施設整備
- ・児童クラブ整備
- ・民間保育所施設整備

<清掃施設整備>

- ・最終処分場整備
- ・荻窪清掃工場施設整備
- ・ペットボトル処理施設整備

## 4 グリーンドーム前橋等施設の状況

### (1) 競輪関係施設

#### ○ 前橋競輪場

名称 : 前橋競輪場 (グリーンドーム前橋)  
ピスト : 335m クロソイド曲線  
地下 : 機械設備各室  
1階 : 公営事業課事務所、集計センター、警備関係室、競技関係 (選手エリア)  
2階 : 一般入場者出入口、投票所2か所、案内所、ピスト (競走路)、子供室、レストラン、フードカウンター、喫煙所  
3階 : スタンド、投票所2か所、警察官詰所、レストラン、フードカウンター、喫煙所  
4階 : スタンド、喫煙所 (喫煙所内にフードカウンター)  
5階 : 開催管理関係各室、ゴンドラ席、投票所1か所  
6階 : 貴賓室、招待者席、実況テレビ・放送・写真室、記者室、投票所2か所  
入場料 : 一般 無料、ゴンドラ席 410円  
投票所 : 投票所7か所 (手売窓口8窓・自動発券機18台・自動発払機34台)  
マルチ券発売 100円～200,000円

#### ○ 館林場外車券売場

位置 : 館林市赤生田町345番地  
敷地面積 : 21,511m<sup>2</sup>  
延床面積 : 9,822m<sup>2</sup>  
建物高さ : 12.3m  
開設 : 昭和59年2月 (現施設平成11年6月)  
収容人員 : 5,000人  
構造 : 鉄骨造 2階建 地下1階  
地下 : 機械設備各室  
1階 : ホール、一般客席796席、特別観覧席44席、食堂、コンビニ、休憩コーナー、手売窓口5  
自動発券機8台、自動発払機15台、払戻専用窓口1、事務室、保守員控室、警備関係室  
2階 : 一般客席800席、子供コーナー、食堂、休憩コーナー  
自動発券機8台、自動発払機15台、払戻専用窓口1  
駐車場 : 2,800台 (第1～第7駐車場)

○ 利根西前売サービスセンター

位置 : 前橋市大渡町1-2-10  
売場面積 : 600㎡  
開設 : 平成20年4月  
収容人員 : 260人  
1階 : 自動発券機3台、自動発払機2台、払戻専用窓口1  
客席ナシ。場内モニター・オッズ表示のみ、実況放映ナシ。  
駐車場 : 5階建立体駐車場 580台

○ 前橋競輪選手宿舎兼市民研修所

位置 : 前橋市総社町2-5-3  
敷地面積 : 5,730㎡  
延床面積 : 4,115.37㎡ (建築面積 2,007.97㎡)  
工期 : 平成2年12月21日～平成4年1月31日  
収容能力 : 宿泊室 41室162名  
構造 : 鉄筋コンクリート造 3階建  
1階 : 玄関ホール、事務室、保健室、宿直室、管理人室、食堂・ラウンジ、  
売店コーナー  
厨房、休憩室、トレーニング室、浴室(サウナ)、脱衣室、機械室、  
EV機械室  
2階 : 宿泊室、会議室、休養室、洗面所、洗濯室、管理室、リネン室  
3階 : 宿泊室、会議室、休養室、洗面所、洗濯室、会議室

(2) イベント等貸館事業

○ グリーンドーム前橋

所在地 : 前橋市岩神町1-2-1

規模 : 敷地面積 137,000㎡  
 : 建築面積 25,421㎡  
 : 延床面積 60,302㎡  
 : 建物の形 東西144m・南北189mの長円形  
 : 建物の高さ 41.2m (軒高31.0m)

構造 : 鉄骨鉄筋コンクリート造り、地下1階・地上7層6階建て  
 世界最大級の張弦梁(ちょうげんばり)構造、  
 フッ素樹脂カラスステンレス屋根葺き

総事業費 : 183億9000万円

主な施設 : メインイベントエリア 5,000㎡、天井高27m、  
 床荷重0.55~5t/㎡  
 スタンド席7,594、アリーナ席5,002  
 : サブイベントエリア 900㎡、天井高4m、床荷重0.5t/㎡。  
 3分割可能。  
 : 会議室 15室、総面積1,025㎡  
 : レストラン等 8店舗

収容人員 : 20,000人

駐車場 : 約2,300台(利根西駐車場を含む)

完成年月日 : 平成2年5月31日

(3) グリーンドーム前橋 施設稼働状況

年度	区分	件数	入場者	稼働日数	稼働率
平成25年度	メイン	134	632,289	319 (35/78)	93.3%
	サブ	95	62,413	193	57.6%
平成26年度	メイン	143	551,726	322 (42/85)	95.5%
	サブ	98	55,326	152	51.4%
平成27年度	メイン	142	512,053	324 (40/80)	96.1%
	サブ	86	38,968	136	50.2%
平成28年度	メイン	136	506,145	322 (26/62)	95.5%
	サブ	70	37,067	117	51.1%
平成29年度	メイン	150	583,281	337 (30/63)	98.5%
	サブ	77	43,336	137	52.5%

※稼働日数には、競輪開催(場外発売)を含む。

※メイン稼働日数かっこ内は、(イベント単独利用日数/イベント総利用日数)。

※稼働率は、休館日等を除いた営業日数ベース。



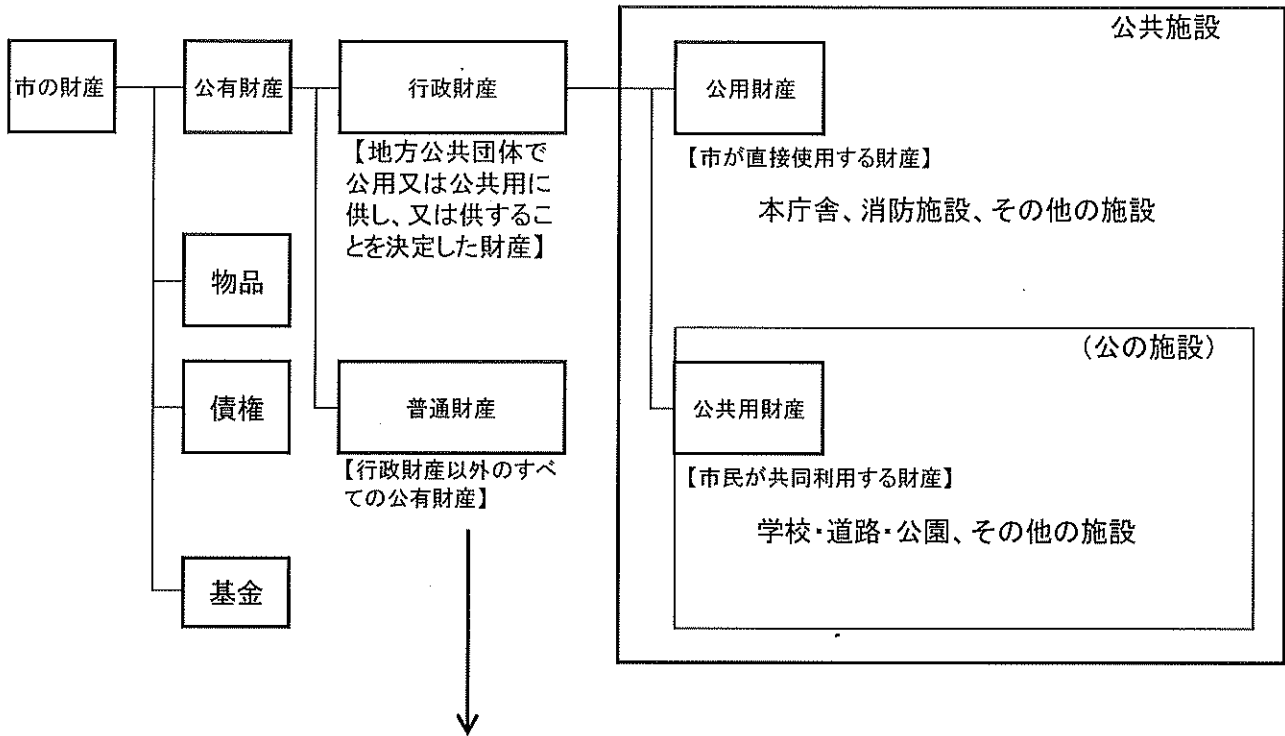
## 5 現状と課題

### (1) 各施設等の課題

施設	土地	建物
グリーンドーム	普通財産（資産経営課）	公共用財産 （貸館事業部分 9,248 m <sup>2</sup> ） 公用財産 （事務所等 8,233.04 m <sup>2</sup> ） 普通財産 （競輪事業部分 42,821.15 m <sup>2</sup> ）
グリーンドーム駐車場 1,700 台	普通財産 普通財産（資産経営課） 前橋土木事務所	—
館林場外車券売場	館林市	普通財産
館林場外車券売場駐車場 2,800 台	私有地	—
利根西前売サービスセンター 580 台	普通財産 普通財産（資産経営課） 私有地	普通財産 私有地
競輪選手宿舎兼市民研修所	普通財産 行政財産（資産経営課） 私有地	普通財産

※ グリーンドーム前橋には、行政財産としての公共用財産（メインイベントエリア、サブイベントエリア、会議室等）、公用財産（事務室、保守員控室、多用室、銀行員控室等）、普通財産（競輪車券発売施設、食堂、売店、競輪選手エリア等）が、混在している。

【参考】市の財産区分



競輪場などの公営競技場は、  
地方公共団体の収益事業のための施設と位置付けられ、  
普通財産となる。

(2) 館林場外車券売場の状況



館林場外車券売場は、昭和59年2月に開設されて以来、多くの競輪ファンに感動と興奮をお届けしてきた。平成11年6月には全面的にリニューアルされ、多くのファンを魅了している全国屈指の場外車券売場である。全国各地で開催されている競輪から選りすぐりのレースを場外発売する他、ナイター競輪、ガールズケイリンと多様なレースもお楽しみいただける。場内は166インチの大画面4台と約1,600人座れる席数で競輪が快適にご観覧いただける。また、サービス向上を目的として、食堂と売店を完備している。アクセスは東北自動車道館林インターチェンジに隣接している他、北関東自動車道や国道50号、上武国道等が近接した交通の要所・好立地であり、駐車場も61,269㎡の敷地を確保しており、約2,800台の駐車が可能である。また、商圈範囲をみても近くには競合する公営事業はなく、群馬県内のみならず、他県からのお客様も来場され、全国の場外車券売場の中でも屈指の売上を誇っている。

### (3) 公営事業課の状況

#### ・職員数

係名	職員数			嘱託員数
	職員数	再任用数	公社派遣	
課長	1			
管理係	4	1		1
施設係	4		1	1
事業係	5	2	2	16
労務係	3	1		10
合計	17	4	3	28

#### ・事務分掌

##### 管理係（6人）

- 1 前橋競輪の開催運営・開催日取りに関する事
- 2 課の歳入歳出予算の編成・補正・決算に関する事
- 3 歳出予算の執行に関する事
- 4 臨時場外車券売場の設置に関する事
- 5 前橋競輪関係団体に関する事
- 6 課内の調整・とりまとめ、他課との調整に関する事

##### 施設係（6人）

- 1 グリーンドーム前橋・館林場外・選手宿舍・ドームパーキング（駐車場全般）施設の維持管理に関する事
- 2 土地及び施設（メインアリーナ・サブアリーナ・会議室を除く）の賃貸借に関する事
- 3 施設の大規模改修工事及び計画に関する事

##### 事業係（25人）

- 1 競輪開催業務に関する事
- 2 関係団体との調整に関する事
- 3 競輪事業再生計画に関する事
- 4 施設（グリーンドーム）の貸出し業務に関する事

##### 労務係（14人）

- 1 前橋競輪場の臨時従事員に関する事
- 2 館林場外車券売場の臨時従事員に関する事
- 3 館林場外車券売場の運営に関する事
- 4 競輪開催における未払金・時効金に関する事
- 5 場外開催における金庫収納金精算に関する事



- ※ 競輪開催に関する業務は、法律で JKA に委託する競技実施法人固有事務（自転車競技法施行規則第 4 条）及び施行者の固有事務（自転車競技法施行規則第 5 条）が決められている。

#### 自転車競技法施行規則

（一括して委託しなければならない競輪の実施事務）

第 4 条 法第 3 条後段の経済産業省令で定める一括して委託しなければならない競輪の競技に関する事務は、次に掲げる事項に関する事務とする。

- 1 競輪に出場する選手及び競輪に使用する自転車の競走前の検査に関すること。
- 2 発走、着順の判定、勝者の決定その他の競輪の審判及びその発表並びに出走する選手の紹介に関すること。
- 3 競輪に出場する選手のあっせんの依頼及び選手の競走別組み合わせの決定に関すること。
- 4 競輪に出場する選手の確定並びに競輪開催に係る選手及び自転車の管理に関すること。

（競輪施行者が競輪を開催するときの固有事務）

第 5 条 法 3 条第 3 号の経済産業省で定める事務は、次に掲げる事項に関する事務とする。

- 1 競輪の開催の日時、使用する競輪場（競輪場を借り入れて使用する場合は、その借用に関する契約の内容を含む。）並びに競走の種類、回数及び順序を決定すること。
- 2 使用する場外車券売場及び競輪を行なう競輪場以外の競輪場であって車券の発売等の用に供するもの（以下「場外車券売場」という。）の決定（場外車券売場等を借り入れて使用する場合は、その借用に関する契約の内容の決定を含む。）をすること。
- 3 車券の券面金額を決定し、及び車券を作成すること（競輪施行者の電子計算機と電気通信回線で接続された発券機で発券する事務を除く。）
- 4 払戻金の額を決定すること。
- 5 選手に対し賞金又は商品を支給する場合は、支給する賞金の額又は賞品の種類及びその支給の条件を決定すること。

(4) 従事員の状況

従事員年齢構成

H30.11.1 現在

	前橋			館林			合計	構成比
	投票所	自警	その他	投票所	自警	その他		
45～49歳	3	1	0	0	0	0	4	2.6
50～54歳	8	1	2	1	0	1	13	8.5
55～59歳	11	3	5	7	0	3	29	19.0
60～64歳	28	6	2	28	0	10	74	48.3
65歳以上	10	9	4	2	4	4	33	21.6
合計	60	20	13	38	4	18	153	100.0

前橋競輪臨時従事員就業要綱において、従事員の退職（雇い止め）は、本人の年齢が満65歳に達する年度の末日としている。

- ※ 従事員の約70%が60歳以上で、毎年退職者が出ている状況である。  
 近年、求職者は福利厚生を重視する傾向があり、新規募集をかけているが、退職者の補充がままならない。

在籍数推移

	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度	
	前橋	館林	前橋	館林	前橋	館林	前橋	館林
人数	93	60	67	55	56	45	46	34
合計	153		122(79.7%)		101(66.0%)		80(52.3%)	

現在いる再雇用者19人を再雇用しないとした場合で試算

- ※ 平成32年には66.0%、平成33年度には52.3%となる。

(5) 前橋競輪の売上

年度	前橋本場	適用	館林場外	適用	利根西前売SC	S前橋	前橋合計	参考	
								ポートピア栗橋	ポートピア岡部
平成20年度	10,129,237,500		12,923,380,100		1,457,405,300		24,510,022,900		127億円
平成21年度	8,723,258,300		12,285,044,200		1,646,387,800		22,654,690,300	7億円	117億円
平成22年度	7,439,913,000	東日本大震災(1ヶ月休)	10,235,797,300	東日本大震災(1ヶ月休)	1,598,654,800		19,274,365,100	72億円	113億円
平成23年度	6,867,917,400	東日本大震災(1ヶ月休) ミッドナイト競輪開始	9,488,473,000	東日本大震災(1ヶ月休)	1,493,362,300		17,849,752,700	103億円	138億円
平成24年度	6,616,853,400		9,810,849,900	ナイター拡充(38→108) 早朝発売開始	1,810,308,900		18,238,012,200	109億円	136億円
平成25年度	5,676,193,300		9,724,349,600	ナイター拡充(108→201)	1,873,163,600		17,273,706,500	118億円	129億円
平成26年度	5,130,624,100	ミッドナイト枠内化 サテライト前橋オープン ナイター開催開始	9,792,136,400	ナイター拡充(201→272) 特別観覧席リニューアル	1,550,942,400	2,190,027,200	18,663,730,100	114億円	131億円
平成27年度	4,307,765,800		8,989,603,200	映像機器更新	1,493,605,600	2,687,727,200	17,478,701,800	111億円	129億円
平成28年度	3,935,345,100	発券機更新	8,645,471,900	発券機更新	1,489,414,100	2,712,838,700	16,783,069,800	107億円	128億円
平成29年度	3,752,951,100		7,996,428,100		1,489,175,900	2,699,701,000	15,938,256,100	105億円	119億円

※それぞれの売上は、前橋競輪(本場開催)を含めた、紙車券による現場での発売実績である。

※前橋本場の売上に、電話・インターネット投票、協力他場(競輪場、サテライト等)での売上額は含まない。

【参考】専用場外 売上実績比較

(単位:円)

年度	内訳										
	総売上		Gレース		通常開催(昼)		通常開催(ナイト)		通常開催(モーニング)		
	売上	前年比	売上	前年比	売上	前年比	売上	前年比	売上	前年比	
ラピスタ新橋	平成30年度	5,072,980,703	92.6%	1,659,839,800	99.6%	1,764,660,200	86.1%	1,536,376,100	91.0%	70,076,500	42,028,100
	平成29年度	10,955,298,603	92.8%	3,331,927,100	91.9%	4,096,770,400	94.1%	3,375,160,300	88.6%	110,540,200	40,900,600
	平成28年度	11,809,677,603	91.1%	3,624,970,200	93.2%	4,352,820,400	88.0%	3,809,222,800	92.5%	0	22,664,200
	平成27年度	12,963,785,600	—	3,889,791,100	—	4,945,862,100	—	4,118,706,400	—	0	9,426,000
サテライト水戸	平成30年度	4,171,392,703	93.8%	1,798,070,100	99.1%	1,476,315,300	89.5%	897,007,300	91.1%	0	0
	平成29年度	8,898,661,303	94.3%	3,630,616,600	95.2%	3,298,121,900	94.1%	1,969,114,500	93.4%	0	808,300
	平成28年度	9,432,761,903	96.5%	3,812,889,900	91.8%	3,505,850,600	97.6%	2,107,211,500	104.1%	0	6,809,900
	平成27年度	9,772,451,300	—	4,154,579,600	—	3,593,820,600	—	2,024,051,100	—	0	0
館林場外	平成30年度	3,740,089,703	93.5%	1,819,610,200	102.0%	1,220,918,400	82.9%	699,561,100	94.4%	0	0
	平成29年度	7,996,428,103	92.5%	3,568,825,000	88.8%	2,944,854,700	99.0%	1,482,748,400	89.9%	0	0
	平成28年度	8,645,471,903	96.2%	4,019,795,500	96.5%	2,975,912,000	91.2%	1,649,764,400	105.6%	0	0
	平成27年度	8,989,603,200	—	4,163,566,800	—	3,263,684,900	—	1,562,351,500	—	0	0

※ 平成30年度実績は、9月末現在(半年間)の数字。

※ 平成30年度の前年比は、実績値を2倍(1年見当)したもので算出。

※ GPシリーズ(12月)は「通常開催(昼)」に区分している。→ 上半期終了時、単純比較で前年比大幅減に見えるが、GPの割り振りも影響している。



# (6) グリーンドーム前橋の施設改修

H22年度～H24年度(実績)	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H30年度	H31年度	H32年度(計画)
<p>■1期～3期工事</p> <p>設備改修 屋根葺き (※基礎調整含む) 2階天井吊钩改修 (防水・バルコニー及びウレタン防水部) 外装改修 (洗浄・RC面塗装) 屋外階段防水改修 設備、電気安全対応、その他 蓄電池交換:</p> <p>829,500</p> <p>主な業務・工事 ・トイレウォッシュレット改修工事 31,400 ・ヒートポンプチャージ空調機更新 42,000 ・屋内照明器具更新工事 10,395 ・太陽光発電 118,524 ・道路舗装改修工事 21,000 ・アリーナ音響調整及び床面調整業務 5,709 ・その他 25,788</p>	<p>準備調査期間 ・経年劣化度点検・確認によるESCO事業を視野に入れ、維持保全の年次計画の見直し。</p> <p>ESCO工事</p> <p>主な業務・工事 ・サブインコンクリート改修工事 17,841 ・発電機負荷分担調整工事 5,314 ・自家用発電機設置工事 28,600 ・自家用発電機制御回路リニューアル工事 18,792 ・自家用発電機制御回路調整工事 4,097 ・自家用発電機制御回路調整工事 1,286 ・音響設備改修設計業務 1,026 ・音響設備改修設計業務 20,000 ・照明器具点検調整業務 51,000 ・その他 14,526</p>	<p>第一次ESCOサービス開始</p> <p>ESCO事業</p> <p>主な業務・工事 ・アリーナ音響設備更新及びアリーナ水廻りLED化業務 297,087 ・雑用水ポンプほか更新工事 28,600 ・自家用発電機更新工事 17,820 ・自家用発電機制御回路調整業務 1,026 ・自家用発電機制御回路調整業務 1,286 ・音響設備改修設計業務 1,026 ・音響設備改修設計業務 20,000 ・照明器具点検調整業務 51,000 ・その他 14,526</p>	<p>準備調査期間 ・設備更新型ESCO事業実施可能性調査等</p> <p>ESCO事業</p> <p>主な業務・工事 ・大規模塗装設備等管理設備更新 ・ドーム設備改修基本計画 ・ESCO事業可能性調査 ・エネルギー削減調査 ・プロムナード橋点検 ・各所修繕等 ・ESCO事業</p>	<p>第二次ESCOサービス開始</p> <p>ESCO事業</p> <p>主な業務・工事 ・アリーナ音響設備更新及びアリーナ水廻りLED化業務 31,320 ・ドーム設備改修基本計画 4,880 ・ESCO事業可能性調査 1,500 ・エネルギー削減調査 23,760 ・プロムナード橋点検 4,000 ・各所修繕等 17,000 ・ESCO事業 83,770</p>	<p>準備調査期間 ・設備更新型ESCO事業実施可能性調査等</p> <p>ESCO工事</p>	<p>第二次ESCOサービス開始</p> <p>ESCO事業</p>	<p>2,259,193</p>
<p>今回の改修計画範囲</p>	<p>今後の予定</p>	<p>1,056,957</p> <p>63,367</p> <p>118,390</p> <p>382,097</p> <p>493,082</p> <p>166,210</p>	<p>106,770</p> <p>1,757,370</p> <p>1,371,970</p> <p>3,236,119</p> <p>5,493,303</p>	<p>小計</p> <p>2,259,193</p>	<p>小計</p> <p>1,371,970</p> <p>3,236,119</p> <p>5,493,303</p>		

上記は、平成20年3月「ヤマダグリーン・ドーム前橋」設備劣化点検調査により報告された改修(参考)金額を基に作成しています。

(7) 財政の運営シミュレーション

(単位:円)

収支	No	項目	平成3年度 (ベース時)	平成29年度 (決算)	平成30年度 (現計予算)	平成32年度	平成37年度	平成38年度	平成40年度	平成42年度
収入	1	購者投票券発売収入	76,152,986,100	20,491,898,300	18,906,000,000	18,647,627,453	15,573,842,708	14,959,085,759	13,729,571,861	12,500,057,963
	2	費用料	—	40,969,773	41,065,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000
	3	競輪場貸付収入	1,610,961,241	470,351,556	447,720,000	428,019,916	357,467,193	343,356,636	315,135,543	286,914,449
	4	基金繰入金	0	100,000,000	147,070,000	535,400,000	124,943,493	269,541,453	4,751,981	0
	5	前年度繰越金	1,521,237,831	306,861,199	300,115,000	395,072,898	87,325,887	23,357,680	0	0
	6	その他収入	1,938,495,446	374,510,439	395,540,000	340,804,499	284,627,194	273,392,620	250,921,994	228,451,368
		<b>合計①</b>	<b>81,223,690,618</b>	<b>21,784,591,267</b>	<b>20,237,510,000</b>	<b>20,386,924,766</b>	<b>16,468,207,205</b>	<b>15,908,734,148</b>	<b>14,340,361,379</b>	<b>13,055,423,780</b>
支出	7	人件費	156,889,098	143,591,734	188,687,000	157,660,000	157,660,000	157,660,000	157,660,000	157,660,000
	8	競輪開催費	6,725,297,665	3,899,597,402	4,373,549,000	3,809,533,636	3,676,094,026	3,649,406,103	3,596,090,259	3,542,654,415
	9	払戻返還金	56,810,691,910	15,302,866,550	14,122,782,000	13,925,608,561	11,630,178,578	11,171,092,582	10,252,920,589	9,334,748,596
	10	施設管理費	828,644,000	388,860,894	399,278,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000	300,000,000
	11	施設整備費	1,242,028,082	162,238,400	147,070,000	535,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000
	12	交付金	6,662,587,901	678,048,580	658,641,000	617,024,208	515,316,921	494,975,463	454,292,548	413,609,634
	13	一般会計繰出金	3,000,000,000	200,000,000	100,000,000	100,000,000	30,000,000	0	0	0
	14	基金積立金	1,696,815,180	645,000,420	16,272,000	700,000,000	0	0	0	0
	15	地方公共団体金融機構納付金	919,430,573	0	1,000,000	0	0	0	0	0
	16	施設整備費公債費	639,811,000	0	0	0	0	0	0	0
	17	その他	7,422,391	52,809	250,231,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
		<b>合計②</b>	<b>78,699,617,820</b>	<b>21,408,256,789</b>	<b>20,237,510,000</b>	<b>20,145,426,405</b>	<b>16,444,849,525</b>	<b>15,908,734,148</b>	<b>14,896,503,397</b>	<b>13,884,272,645</b>
実質収支	18	①-②	2,534,062,798	376,334,478	—	241,498,361	23,357,680	0	-556,122,018	-828,848,865
基金残高	19	施設整備基金	5,486,287,126	2,723,571,493	2,655,843,493	1,516,543,493	0	0	0	0
		財政調整基金	—	701,178,308	—	701,180,000	701,180,000	431,638,547	0	0

- 1 発売収入は、H29決算額に対し、実績値より、毎年3%減と試算した。
- 2 H22まで、(財)グリーンロード前橋が施設所有者であったため、H3は賞銀としての使用料収入はなかった。H30以降は競輪開催を主体とし概ねH29決算額とした。
- 3 競輪場貸付収入は、「1」発売収入、Jに合わせた同率で試算した。
- 4 基金繰入金は、H32以降は施設整備費と同額で見込んだが、H37以降は基金残高との調整を行った。また、H38は財政調整基金も取り崩した。
- 5 前年度繰越金は、前年実質収支額を繰越金としたが、H40は前年実質収支がマイナスのため、ゼロとした。
- 6 その他収入は、「1」発売収入と同率で試算した。
- 7 人件費の内訳 正規職員@7,163千円/人 再任用@3,600千円で試算(職員課公表 平均給与単価 共済費含む)  
人件費人数  

H30	H32以降
職員	17
再任用	20
まちづくり公社職員	4
合計	41
- 8 競輪開催費は、固定費が30億円その他を「1」発売収入と同率で試算した。
- 9 払戻返還金、13交付金は「1」発売収入と同率で試算した。
- 11 施設整備費内訳  

	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37以後
第1次ESCO事業	84,000	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400
第2次ESCO事業	0	1,640,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
施設整備等		6,100		400,000	400,000	600,000		
走路改修等				50,000				
競輪場外車券売場		2,300	400,000	400,000				
選手宿舎		0	70,100					
合計	84,000	1,803,900	535,400	585,400	535,400	735,400	135,400	

★ 7年後の平成37年度には施設整備基金が底をつき、翌38年度には実質収支もゼロとなり、一般会計への繰出しもできなくなる。さらに、平成40年度には財政調整基金も底をつき、実質収支がマイナス5億5千万円となり、競輪事業の存続が難しい状況となる。

## 6 包括委託に関する調査結果

包括に関する調査について、すでに包括委託を実施している先行場19場  
(内18場回答) に対して調査を行った。

### 1 契約期間

最長	10年
平均	4.9年
最短	1年

### 2 包括委託した業務

・選択肢あり

競輪開催(場外発売含む)業務	18場
宣伝広告業務	
施設管理業務	17場

・上記以外業務(自由記入)

施行者固有事務を除く業務全般を委託	3場
警備、清掃、イベント、投票機器保守、映像制作・配信等	2場
ファンサービス業務、施行者業務支援	1場
一般管理、歳入徴収	
警備、清掃、市民に親しまれる競輪場づくり	
場外事務補助	
従事員の雇用	

### 3-1 契約金額

・委託範囲や競輪場の規模等によって異なるため、一概には比較できない。

最高額	1,225,813,969円
最低額	222,874,487円

### 3-2 算出根拠

車券売上額の一定割合	5場
事業収入-(開催経費+収益等)	4場
定額	2場
包括委託前の業務委託料や決算を参考	
市営実費+受場外料率	1場
開催委託料+機械賃借料	
業務経費の積み上げ	

※収益保証(またはそれに類するもの)を設定している場合は、6場ある。

### 4-1 包括委託先業者

日本トーター(株)	11場
日本写真判定(株)	4場
松戸公産(株)	1場
トータリゼータエンジニアリング(株)	
川崎事業所 JKA・(株)コアズJV	

### 4-2 包括委託先業者社員数

・委託範囲や競輪場の規模等によって異なるため、一概には比較できない。

・正社員数

最大	28人
最小	6人

・パート

最大	186人
最小	7人

・その他(契約社員、従事員)

最大	113人
最小	6人

・派遣社員数

1場のみ	25人
------	-----

### 5 委託前後の自治体職員数

・委託範囲や競輪場の規模等によって異なるため、一概には比較できない。

・正規職員減少割合

最大	50%減
平均	37%減
最小	12%減

・非正規職員減少割合

最大	100%減
平均	44%減
最小	200%増

・全体職員数減少割合

最大	96%減
平均	46%減
最小	14%増

### 6 委託前後の従事員

・委託範囲や競輪場の規模等によって異なるため、一概には比較できない。

・雇用形態

自治体→包括委託業者	11場
自治体→自治体	5場

※従事員減少割合 平均53%減

### 7 委託前後の単年度収支（34条報告ベース）

- ・34条報告ベース（開催収支報告）とは、本場開催のみに関する収益であり、最終的な収益ではない。
- ・競輪全体の売上は、減少しているものの、34条報告ベースの単年度収支でも、以下の通り増益の競輪場がある。

（単位：千円）

	契約直前の単年度収支	平成29年度収支	増加割合
①	12,551	280,937	2238.5%
②	81,472	242,590	297.8%
③	196,867	454,341	230.8%
④	316,768	597,898	188.7%
⑤	331,657	385,754	116.3%
⑥	25,318	26,006	102.7%
⑦	▲13,879	306,902	-
⑧	▲12,216	300,000	-
⑨	▲21,421	157,658	-
⑩	▲256,366	▲74,574	-

※増加割合順

※平成29年度（決算）収支

前橋 648,948千円

### 8 一般会計繰出金

- ・競輪全体の売り上げは減少しているものの、以下の通り増額の競輪場がある。

（単位：千円）

	契約直前の繰出金	平成29年度繰出金	増加割合
①	10,000	50,000	500%
②	20,000	80,000	400%
③	58,278	115,037	291%
④	300,000	500,000	160%
⑤	170,000	250,000	147%
⑥	0	250,000	-
⑦	0	180,000	-
⑧	0	180,000	-
⑨	0	100,000	-
⑩	0	100,000	-

※増加割合順

※平成29年度（決算）一般会計繰出金

前橋 200,000千円

### 9 施設整備基金残高

- ・ほぼすべての施行者で保有し、施設改修や存廃問題、不測の事態に備えており、

（単位：千円）

	契約直前の基金残高	平成29年度基金残高	増加割合
①	121,089	1,028,922	850%
②	499,809	1,343,125	269%
③	700,501	1,640,353	234%
④	110,974	228,239	206%
⑤	4,803,128	5,383,221	112%
⑥	0	146,500	-
⑦	-	1,801,035	-
⑧	-	953,469	-
⑨	-	752,630	-
⑩	-	299,853	-

※増加割合順

※平成29年度（決算）施設整備基金残高

前橋 2,723,571千円



## 10 委託前に想定された効果

### ・メリット

人件費、事務負担等の経費の削減	13場
民間のノウハウの活用	10場
事務負担の軽減、業務効率の向上	8場
施行者の収益確保	4場
ファンサービスの向上	
柔軟な人員配置	2場
経営リスクの分散化	1場
労働管理、従事員確保の軽減	
委託料を売上と連動させることで、受託者が売り上げ向上に取り組む	
柔軟な事務執行	
競輪事業の活性化	
指示命令系統の簡素化、統一	
施行者の開催ノウハウがなくても開催可能	

### ・デメリット

競輪開催業務ノウハウの喪失、蓄積が困難	10場
施行者の主体性が失われる恐れがある	2場
受託可能業者が少なく価格競争がない	1場
合法的ストライキが可能になる	
安定した開催業務に不安がある	
組合交渉期間が短く従事員雇用が委託できなかった	
契約満了後の業務継続（新たな事業者への引継ぎ）	
コストカットによるファンサービスの低下	

## 11 包括委託契約後の効果

### ・メリット

人件費、事務負担等の経費の削減	12場
民間のノウハウの活用	7場
事務負担の軽減、業務効率の向上	6場
施行者の収益確保	4場
ファンサービスの向上	5場
柔軟な人員配置	2場
柔軟な事務執行	
投票機器等の整備	1場
専門性の高いスタッフによる安定した事業運営	
経営資源を活用する業務の効率化	
黒字化	

### ・デメリット

競輪開催業務ノウハウの喪失、蓄積が困難	11場
契約満了間近になると受託者の投資意欲が減退する恐れがある	1場
契約満了後の業務の継続（新たな事業者への引継ぎ）	
コストカットによるファンサービスの低下	
施行者の主体性が失われる恐れがある	
最低保証金額を設定する中で捻出できる限界が来ている	
健全な経営のために双方で協議をしていかなければならない	
収益保証額に限界が来ている。今後も同額保証で契約継続するか、運営方針を含めて検討していかなければならない	
委託料が定額制のため、売上が年々減少するとかなり苦しい	
売上が下がる傾向にあるときは、定率で売上連動の委託料、収益保証型の契約形態にする方が収益確保の点でベターに思える	
連絡を密にとらないと、トラブルが発生する恐れがある	

## 7 新しい事業展開への期待

### スポーツ競技とエンターテインメント化の期待

#### ○ バンク木製化（国内外の自転車競技大会）

##### ★スポーツコンベンションの実現

アスリートスポーツとしての国際自転車競技大会の実施会場は「屋内」・「木製バンク」が主流となっている。

グリーンドームの現行舗装路に改修を施し、バンクを木製化することによって、国内外を問わず、自転車競技大会誘致が現実味を帯びてくる。

※平成31年2月5日付けで経済産業省の告示「施設の規模、構造及び設備並びにこれらの配置の基準」が改正され、250m走路並びに木製バンク（屋内競走路に限る）も競輪場として認められるようになった。

【改正後】

- ・1周距離 250m、300m～500m
- ・走路面 舗装又は木材で建築



※伊豆：ペロ・ドーム

#### ○ メディアとのタイアップ（第5世代移動通信システム・5G）



※VR寛仁親王牌（グリーンドーム前橋）

##### ★映像戦略

5Gのコンテンツとして【競輪（自転車競技）が持つ可能性】について、（JKAを交えて）メディア関係者と意見交換を行っている。

グリーンドームの特性（屋内バンク）を活かした「臨場感（迫力）があり」「魅力的な」レース映像を実現したい。

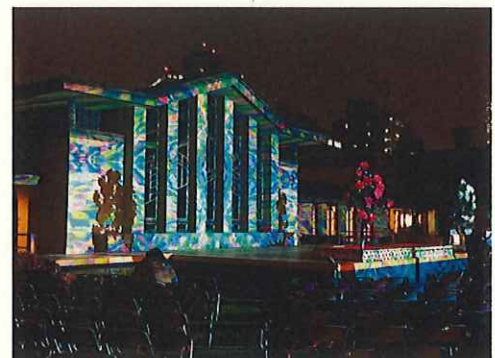
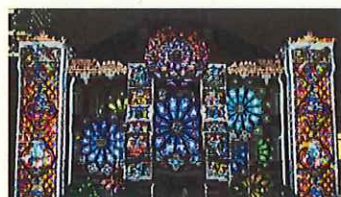
- スポーツ性のアピール
- ファン層拡大（新規顧客獲得）

#### ○ イベント活用（展示会・音楽コンサートから多角化へ）

##### ★グリーンドームの多目的利用

企画を伴う「コンベンション」施設へ。有料イベントを開催可能な施設への転換を図る。

- 例) プロジェクション・マッピング
- サテライト・ペイビュー



※プロジェクションマッピングの一例



## ○ 新しい競輪競走



※UCIルールによる「KEIRIN」

## ★競輪からKEIRINへ

競輪界では、新しい競走形態（250KEIRIN）の検討が始まった。グリーンドーム前橋は、既存概念を打破し、お客様に受け入れられる次世代の競輪競走を実施できる施設を目指す。



## 館林場外の事業展開への期待

### ○ 複合発売の可能性

#### ★シナジー効果による売上向上

現行制度では、複合発売を実施するためには、民間事業者が（他競技・管理施行者と）契約するしか方法がないと考えられる。

他競技（競馬やオートレース）の複合発売を実施することで、商圏の拡大・新規顧客の獲得など、売上・集客の向上に繋がることが期待される。



## 8 今後の事業運営方式の可能性

### (1) 今後の事業運営方式の比較

※収益の確保と持続可能な事業運営を追求していくため、現行の直営方式と比較し、官民連携とのベストミックスの可能性を考察していく。

事業運営方式	[ 現行と比較すると ○:向上 △:変わらない ×:低下 劣る ]												
	①移行手続	②施設管理	③館林場外活用	④維持管理費	⑤収益性	⑥繰出金	⑦職員数	⑧ファンサービス	⑨業務効率化	⑩危機管理	⑪事業展開	⑫将来性	⑬総合評価
直営方式 (前橋市営)	—	○	△	△	×	×	△	△	○	△	△	△	×
官民連携 ・競輪事業: 勾当民営委託 ・貸館事業: 前橋市	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○
指定管理者制度 (全民間委託)	△	×	—	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△

①移行手続 … 競輪事業のみ切り離して委託を行ったほうが、移行に係る手続きは簡易で時間は短い。

②施設管理 … 財団法人及び前橋市として、27年間、丁寧に保守点検及び施設改修を行ってきた実績がある。全て委託した場合、指定管理者の下では、中長期の計画が立てられず、同様に継続することはできない。

③館林場外活用 … 民間のノウハウや経営資源の活用で、高収益かつ効率的な経営を行う。また、他の公営事業への進展も期待できる。ただし、館林場外は、公の施設ではなく、指定管理者制度には馴染まない。

④維持管理費 … このままでは、老朽化とともに維持管理費が増大していく中で、財源の確保は難しくなっていく。委託した場合、収益が悪化した場合には、財源確保は同様に困難であるが、委託先企業が自ら出来る修繕を行ったり、民間企業同士による修繕契約(官民契約よりも安価に行える可能性がある)などにより、維持管理費をなるべく抑えられる。

⑤収益性 … 前橋市にとって、有益な提案の出来る事業者に委託することが前提だが、例えば、複数年契約の締結や、民間のノウハウなどにより経営基盤の強化や安定した収益が見込める。

⑥繰出金 … 直営方式継続の場合、繰出が困難になっていく可能性がある。民間委託を行い収益が安定・増加する可能性は現行方式より高いので、一定の繰出が見込める。

⑦職員数 … 委託範囲を広げるほど、市職員の必要数は減少する。直営方式継続の場合、前橋市では定期的な人事異動があり、専門性の高い職員の育成が難しい。

⑧ファンサービス … 民間のノウハウや経営資源の活用で、より効果的な宣伝・集客・ファンサービスを行う。

⑨業務効率化 … 専門性の高いスタッフや、効率的な人員配置により安定かつ効率的な事務を行う。

⑩危機管理 … 定期的に消防総合訓練を実施しているとともに、前橋市指定避難所及び防災物流拠点となっている。市内の一次避難所の中には、指定管理者制度を導入しているものもあるが、災害時の運用も想定して指定管理者とあらかじめ協議・協定を行う必要がある。

⑪事業展開 … 民間のノウハウや経営資源の活用で、新たな事業を展開していく。競輪事業+αの新たな事業を、迅速かつ柔軟に行い、儲ける力を養いながら、スポーツとエンターテインメント化が期待できる。

⑫将来性 … 直営方式だけでは、持続可能な形で継続していくことは難しい。民間活力が使える分野は連携し、官民一体となって取り組んでいくほうが良い。

⑬総合評価 … 今後も前橋競輪の収益確保と継続のためには、民間事業者目線からの見直しと提案を求め、民間活力と共存・連携していくべきである。ただし貸館事業については、現行通り条例・規則に基づき行う方が、事務が進めやすい。民間と行政との役割分担を整理し、パートナーシップ方式で各々の活力を最大限に生かし、ドームの再生、ひいては、まちなかの人が集まるにぎわい拠点とし、本市の価値向上、まちづくりにつなげていく。



(2) 財政運営シミュレーション (直営と委託の比較)

No	項目	平成30年度 (9月補正後現計予算)		平成32年度		平成37年度		平成38年度		平成40年度		平成42年度	
		平成29年度 (決算)	平成30年度 (ピーク時)	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合
1	勝者投票券売収入	20,481,898,300	76,152,986,100	18,906,000,000	19,069,760,558	15,573,842,708	18,106,641,338	40,000,000	40,000,000	17,914,017,494	17,928,769,806	40,000,000	40,000,000
2	使用料	40,969,773	—	41,065,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000	40,000,000
3	競輪場賃付収入	470,351,556	1,610,961,241	447,720,000	428,019,916	357,467,183	415,602,635	343,356,636	411,181,330	315,135,543	402,338,721	288,914,449	393,496,112
4	基金繰入金	0	0	147,070,000	535,400,000	124,945,493	135,400,000	269,541,453	135,400,000	4,751,981	135,400,000	0	135,400,000
5	前年度繰越金	306,861,199	1,521,237,831	300,115,000	395,072,898	87,325,887	323,333,070	23,357,660	304,179,993	0	361,066,730	0	407,089,318
6	その他収入	374,510,439	1,938,495,446	399,540,000	340,804,489	284,827,194	330,917,424	278,392,620	327,397,026	250,921,994	320,356,230	228,451,368	313,315,433
	合計①	21,784,591,257	81,223,680,618	20,327,510,000	20,386,924,766	16,468,207,205	19,351,894,457	15,908,734,148	19,132,175,843	14,340,381,379	18,787,833,437	13,955,423,780	18,432,802,951
7	人件費	143,591,734	158,889,098	168,887,000	78,830,000	157,660,000	78,830,000	157,660,000	78,830,000	157,660,000	64,504,000	157,660,000	64,504,000
8	競輪開催費	3,889,597,402	6,725,297,685	4,373,349,000	3,809,533,636	3,676,094,026	3,063,282,211	3,649,406,103	3,060,577,257	3,596,030,259	3,065,167,350	3,542,654,415	3,945,757,442
9	払戻返還金	15,302,866,550	56,810,891,910	14,122,782,000	13,925,608,561	14,240,847,611	13,521,612,884	11,171,092,582	13,377,785,938	10,252,920,589	13,090,072,047	9,334,748,596	12,802,378,156
10	包括委託費	—	—	—	—	762,790,422	724,265,654	—	—	716,560,700	701,150,792	—	685,740,885
11	施設管理費	385,860,894	828,644,000	399,278,000	300,000,000	300,000,000	0	300,000,000	0	300,000,000	0	300,000,000	0
12	施設整備費	162,238,400	1,242,028,082	147,070,000	535,400,000	535,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000	135,400,000
13	交付金	678,048,580	6,662,987,901	617,024,208	630,992,009	515,316,921	599,123,725	494,975,463	592,750,069	454,292,549	580,002,795	413,609,634	567,255,442
14	一般会計繰入金	200,000,000	3,000,000,000	100,000,000	200,000,000	30,000,000	200,000,000	200,000,000	200,000,000	0	300,000,000	0	300,000,000
15	基金積立金	645,000,420	1,898,915,180	19,272,000	700,000,000	700,000,000	0	900,000,000	0	600,000,000	0	500,000,000	400,000,000
16	地方公共団体金賦機構納付金	0	919,430,573	0	1,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0
17	施設整備借債償還	639,911,000	7,422,391	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	その他	52,809	7,422,391	250,231,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
	合計②	21,408,256,789	78,689,617,820	20,237,510,000	20,475,857,022	16,444,849,525	19,047,714,474	15,908,734,148	18,782,083,964	14,896,503,397	18,436,496,944	13,864,272,645	18,005,257,925
19	①-②	376,334,478	2,534,062,798	241,438,361	350,595,007	23,357,680	304,179,993	0	350,091,879	-556,122,018	351,436,543	-828,848,865	427,597,056
20	財政調整基金	719,178,308	5,486,287,126	701,180,000	1,516,543,493	1,716,543,493	2,889,543,493	0	3,454,143,493	0	4,283,343,493	0	4,912,543,493
	財政調整基金	—	—	701,180,000	701,180,000	701,180,000	701,180,000	431,638,547	701,180,000	0	701,180,000	0	701,180,000

1 発売収入は、H29決算より、直営の場合で毎年3%減、委託の場合は営業努力の期待値2%見込み、1%減と試算した。  
 2 H22まで、(財)グリーンロードーム前橋が施設所有者であったため、H3は賃借としての使用料収入はなかった。H32以降はH29決算額を参考に40,000千円とした。  
 3 競輪場賃付収入は、「1」発売収入 Jに合わせH32以降各々同率で試算した。  
 4 基金繰入金は、H32以降は施設整備費と同額で見込んだが、直営の場合は、H37以降は基金残高との調整を行った。また、H38は財政調整基金を269,000千円あまりを取り崩し、H40は残額を取り崩した。  
 5 前年度繰越金は、前年度実収支差額を繰越金としたが、直営の場合のH40は前年がマイナスのため、ゼロとした。  
 6 その他収入は、「1」発売収入と同率で試算した。  
 7 人件費の内訳：正規職員@7,163千円/1人 再任用@3,600千円/1人で試算(職員課公表 平均給与単価 共済費含む)した。委託の場合の職員数については、先行場の平均値を取り、段階的に半減とし、試算した。

No	項目	平成30年度 (9月補正後現計予算)		平成32年度		平成37年度		平成38年度		平成40年度		平成42年度	
		平成29年度 (決算)	平成30年度 (ピーク時)	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合	直営の場合	委託の場合
1	第1次ESCO事業	84,000	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400	85,400
2	第2次ESCO事業	0	1,640,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
3	施設整備等	6,100	—	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
4	走路改修等	—	—	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000
5	競輪場外車売場	2,300	—	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
6	選手宿舍	70,100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	外観塗装、EV	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	1,803,900	84,000	1,803,900	535,400	535,400	535,400	535,400	535,400	535,400	535,400	735,400	135,400

8 競輪開催費は、直営の場合は固定費が30億円その他を「1」発売収入と同率で試算し、委託の場合にはH29決算よりH32は包括委託費を減額、それ以後は減額調整のため包括委託費の差額を減額して試算した。  
 9 私戻返還金 13交付金は「1」発売収入と同率で試算した。  
 10 包括委託費については「1」発売収入の4.0% (先行場の平均値)  
 11 施設管理費は、直営の場合は、設備等を更新することで保守料がおさえられることからH32以降300,000千円とし、委託の場合は、先行場の業務内容を参考に皆減とし、試算した。  
 12 施設整備費内訳

☆ 直営の場合、7年後の平成37年度には施設整備基金が底をつき、翌38年度には実収支もゼロとなり、一般会計への繰出しもできなくなる。さらに、平成40年度には財政調整基金も底をつき、実収支がマイナス5億5千万円となり、競輪事業の存続が難しい状況となる。  
 一方、委託の場合には、平成32～39年度の間に、繰入金は2億円を確保し、平成40年度から3億円に増加となる。また、基金についても、健全に積立を維持しており、公営事業として存続可能となっていく。



## 9 競輪事業等運営方式の基本的な考え方

本委員会では、持続可能な収益を生み続ける競輪事業の運営方式を追求し、現行の直営方式と民間活力を有効活用した官民連携方式の可能性について、検討・協議を重ねたうえで比較評価、さらには財政運営のシミュレーションを取りまとめ、次のとおり基本的な考え方を報告することとし、速やかに実現に向けた改革の遂行を要望する。

### 記

1. グリーンドーム前橋及び館林場外車券売場、利根西前売サービスセンター、競輪選手宿舎に係る競輪開催業務については、民間事業者の持つノウハウを積極的に活用し、より効率的な事業運営を実現してほしい。  
また、グリーンドーム前橋で行われているメインイベントエリアやサブイベントエリア、会議室等の貸館事業については、現行の直営方式を継続し、将来的には、民間委託方式についても検討してもらいたい。
2. 民間事業者の選定に当たっては、単なる価格評価とせず、競輪事業の業務効率化、売上向上策はもとより、それを補完するファンサービスや新たなファン層の構築策、さらには、スポーツとエンターテインメント化など来場者の向上に繋がる新事業展開も含めた企画提案をもって総合的に評価・決定してほしい。
3. 官民連携方式の実施に向け、適正な業務の遂行はもとより、来場者や選手関係者等への影響が及ばぬよう十分な準備を行い、スムーズに移行できるよう取り組んでもらいたい。
4. 競輪開催業務に係る職員は相当数減員となるが、業務管理や施設管理、貸館事業等の組織体制を再編整備し、施行者として、また、施設管理者としての責務は、これまでどおり遂行してほしい。

以上、今後も前橋競輪が収益確保を継続し、公営事業として健全財政への一助となり市政運営に寄与していくためには、民間活力と共存・連携していく時期に来ている。

民間と行政との役割分担を明確に整理し、官民連携方式により各々の活力を有機的かつ最大限に生かしながら、グリーンドーム前橋の再生、ひいては、人が集まるまちなかのにぎわい拠点とし、本市の価値の向上とまちづくりに繋げていくことを期待する。

平成 年 月 日

グリーンドーム前橋等運営検討委員会

委員長 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

委員 \_\_\_\_\_

## 【資料】

### グリーンドーム前橋等運営検討委員会の検討経過

- 1 グリーンドーム前橋等運営検討委員会の設置及び第1回検討委員会  
開催日：9月5日（水）  
内 容：本市の人口構造と財政状況  
本市の競輪事業の状況  
今後の競輪事業の動向  
グリーンドーム前橋等施設規模
  
- 2 第2回検討委員会  
開催日：11月7日（水）  
内 容：現状と課題整理  
今後の事業運営方式の可能性
  
- 3 第3回検討委員会  
開催日：12月19日（水）  
内 容：新たな事業展開  
今後の競輪事業の可能性  
競輪事業等運営方式の基本的な考え方についての意見交換
  
- 4 第4回検討委員会  
開催日：2月15日（金）  
内 容：競輪事業等運営方式の基本的な考え方（案）
  
- 5 第5回検討委員会（予定）  
開催日：3月27日（水）  
内 容：競輪事業等運営方式の基本的な考え方の報告

グリーンドーム前橋等運営検討委員会 名簿

	役職名	氏名	備考
1	公益社団法人全国競輪施行者協議会 専務理事	萩原 浩	競輪関係
2	商工会議所 快適なまちづくり専門委員会委員長	小林 要一	まちづくり関係
3	学識経験者	佐藤 博之	文化・学芸・スポーツ 関係（前教育長）
4	中小企業診断士	打尾 貞治	財務関係
⑤	副市長	倉嶋 敬明	行政・開催執務委員長 (H30. 9. 5～H30. 12. 31)
		中島 實	行政・開催執務委員長 (H31. 1. 1～)
6	産業経済部長	櫻井 正明	行政 開催執務副委員長

※⑤委員長

【オブザーバー】

公益財団法人 J K A 事務局長

【事務局】

前橋市産業経済部公営事業課

## グリーンドーム前橋等運営検討委員会設置要綱

### (設置)

第1条 グリーンドーム前橋等の運営に関して、将来に渡って安定的に収益を計上し一般会計への繰出しを確保するための手法を適正かつ公平・公正に検証するために、グリーンドーム前橋等運営検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、民間活力の導入も含め安定的な収益を確保できる運営手法を検証し、市長に報告するものとする。

### (組織)

第3条 委員会は、委員長及び委員6人以内をもって組織する。

2 委員は、グリーンドーム前橋等の有効な運営手法に関して優れた見識を持つもの等のうちから市長が選任する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、初回会議の日から第2条の規定による報告の日までとする。ただし、市長が必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

### (委員長等)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理するものとする。

### (会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。



(意見の聴取等)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に専門的事項に関し学識経験を有する者その他関係人の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(委員の責務)

第8条 委員は、検討の過程において知り得た情報を公表してはならない。ただし、本市が公表した情報及び委員会が公表した情報については、この限りでない。

(事務局)

第9条 審査委員会の事務局は、産業経済部公営事業課に設置する事務局により実施する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成30年9月5日から施行する。